

## 三井物産のCSR



### 社会への貢献

現代社会は、グローバル化やICT化が加速し、多様性に満ち、活力に富み、成長や変化のスピードが速くなる一方、世界的な課題である地球温暖化、食料、エネルギー、水資源などの環境・資源問題、人権や貧困、児童労働や教育の格差など、経済、環境、社会面において多種多様な課題を抱えています。

私たち民間企業の持続的な発展も、社会全体の持続可能性(サステナビリティ)の向上なくして達成することはできません。自社が存在する地域社会、国家、国際社会などが、さまざまな課題を克服してより良い未来に向けて一歩ずつ歩いていく、その歩みに対し、企業が貢献していくことこそ、社会に属する一員としての責務であると認識しています。

当社では、本業を通じた社会への貢献を継続的に行うことが、企業の社会的責任であると考えています。事業を興し、新たな価値を創造し、人と人との関係を構築しながら、日本を含む世界経済や地域社会の健全な発展、また人々の生活水準の向上に、直接・間接に貢献していきたいと思っております。

### 価値観の源流は創業時代に



1876年創業の旧三井物産は、第二次世界大戦後間もなく財閥解体により解散し、同社の歴史に幕を下ろしました。しかしその後、現在の三井物産が「挑戦と創造」「自由闊達」「人材主義」といった価値観を共有した元社員たちにより立ち上げられました。現在の三井物産も、旧三井物産と同様、新たな価値を創造することで社会の発展に貢献しています。

私たち三井物産の事業や仕事の進め方、ものの考え方の基本は、その多くが旧三井物産初代社長・益田孝の遺した価値観、仕事への姿勢に表れています。そこには、当社のCSR(企業の社会的責任)に対する考え方が明確に織り込まれており、その考え方は今も全く変わりません。

「眼前の利に迷い、永遠の利を忘れるごときことなく、遠大な希望を抱かれることを望む。」

「三井物産会社を設立したのは、大いに貿易をやりたいというのが眼目であった。金が欲しいのではない、仕事がしたいと思ったのだ。」

「三井には人間が養成してある。これが三井の宝である。」



益田 孝

## 三井物産の経営理念

これらの事業・仕事におけるものの考え方や価値観・姿勢（Values）は、長らく明文化されたものではありませんでしたが、2004年に暗黙知として共有して来た価値観・理念を体系化・明文化し、「三井物産の経営理念（Mission, Vision, Values）」を策定しました。経営理念の共有は、当社がグローバルな事業活動を通じて世の中に本当に価値のある仕事を創造していくうえで、今までにも増して重要になっていくと考えます。

**経営理念 (MVV)**

  

**Mission** 三井物産の企業使命  
大切な地球と、そこに住む人びとの夢溢れる未来作りに貢献します。

**Vision** 三井物産の目指す姿  
世界中のお客さまのニーズに応える「グローバル総合力企業」を目指します。

**Values** 三井物産の価値観・行動指針

- 「Fairであること」、「謙虚であること」を常として、社会の信頼に誠実に、真摯に応えます。
- 志を高く、目線を正しく、世の中の役に立つ仕事を追求します。
- 常に新しい分野に挑戦し、時代のさきがけとなる事業をダイナミックに創造します。
- 「自由闊達」の風土を活かし、会社と個人の能力を最大限に発揮します。
- 自己研鑽と自己実現を通じて、創造力とバランス感覚溢れる人材を育成します。

## 本業を通じた価値創造

2006年、旧三井物産創業から130周年を迎えました。この年に「原点から未来へ良い仕事」と名づけた全社運動を展開しました。これは社員一人ひとりが旧三井物産創業以来の歴史を振り返り、未来を見据えて当社が取り組むべき「良い仕事」とは何か、現在取り組んでいる仕事は本当に「良い仕事」かどうかを考えてみようという運動です。

「良い仕事」とは、多種多様な事業をグローバルに展開する三井物産の全社員が共有すべき価値観を示した言葉であり、それは、(1)世の中にとって役に立ち、(2)お客様やパートナーの皆さまにとって有益な付加価値を生み出し、(3)社員一人ひとりのやりがいや納得感につながる仕事です。本業を通じて社会に価値を提供し続けること、即ち「良い仕事」を積み重ねていくことが、当社の社会に対する責任であり、「三井物産のCSR」の根幹となります。

社会の期待や要請も時代とともに急速なスピードで変化しさまざまな課題が深刻化する中、社会と企業との関係もまた、変わっていきます。現在のみならず、将来における企業の役割は何なのか、企業とは社会にとってどんな存在意義を持つものなのか、社会は企業に何を求めているのか等、企業人はこれら企業と社会との関係の変化を敏感に察知し、自らの役割を考え続けなければなりません。社会や環境に対する感度（センシティビティ）を向上させ、企業の最低限の義務である法律や社会倫理の遵守に留まらず、この仕事が生かす社会にどのような意味をもつのか、どう役立つのかということを社員一人ひとりが考えることが「良い仕事」の実践に向けた重要なプロセスになります。

無論「良い仕事」や「三井物産のCSR」を代表する事業や案件はひとつではありません。私たちのすべての仕事がお客さまや社会へ価値を提供する「良い仕事」となるように努力していくことが当社の社会に対する責任だと考えています。

## 社会の持続可能性と「三井物産のCSR」

社会が持続可能でなければ、会社も持続可能とはなりません。また、会社が持続可能でなければ、社会的責任を果たすことはできません。「三井物産のCSR」の根幹をなす「良い仕事」とは、世の中に価値を生み出す仕事であり、その価値への対価として、結果的に利益が後から付いてくると考えています。私たちは、この順序で物事を考えることが大事であり、「良い仕事」の実践こそが当社の持続可能性につながると考えています。

三井物産はその歴史の中で、将来どういう時代が訪れるのか、社会や国家はどのように変わっていくのか、あるいはどう変わっていくべきかということを考え、その中で自社のポテンシャルを如何に発揮し、リソースをどのように生かしていくのか、また自社の機能をどのように進化させるのかということ、連綿と追求し続けてきました。未来の日本と世界のあるべき姿を模索し、未来のビジョンと課題を見据えて、より良い未来のために当社はどのような貢献ができるのか、何をなすべきなのか、しっかり見据えて日々の仕事をしていくことが求められています。そうしたビジョンの実現に向けて、本業を通じて価値を創造し「良い仕事」を提供していくことが持続可能な社会の構築に向けた貢献であり、「三井物産のCSR」の実践といえるでしょう。

### CSR基本方針

1. 企業の社会的責任に対する社員一人ひとりの意識を高め、世界各国・地域の文化、伝統、慣習の理解に努め、公正かつ誠実な企業活動を展開します。そして、確かな経営基盤のもと、会社の価値を持続的に向上させるとともに、社会へ価値を提供し続けます。
2. 企業の存在意義・役割を十分に考え、地球環境の保全を意識し、社会に積極的に貢献することで、持続可能社会の実現を目指します。また、社会の期待に応えるため、ステークホルダーとの双方向の対話を重視し、説明責任を果たします。
3. 世界人権宣言等国際的基準を支持し、人権を尊重します。事業活動におけるあらゆる場面で労働基本権を尊重します。
4. 上述方針の実践をグループ企業にも求めると共に、取引先の皆様から良き理解と協力が得られるように努め、グローバル企業としての責任を果たします。

このたび、当社は「CSR基本方針」の見直しを行いました。

「CSR基本方針」は、当社の事業活動の道標である経営理念(Mission, Vision, Value)と共に、脈々と受け継がれてきた考え方を明文化したものであり、当社の目指すCSRの礎として、その根幹は不変です。

一方、この10年でグローバル化が急速に進み、社会問題は複雑化し、企業を取り巻く環境は刻々と変化しています。2010年にはISO26000(社会的責任に関する手引)が発行、2011年にはOECD多国籍企業指針が改訂されるなど、国際社会が持続可能な社会への実現に向けて企業に求める役割は、今後ますます増していくでしょう。当社においても、その根幹に変わりはないものの、近年のCSRに対する社会認識の変化をふまえ、2004年策定の本方針の見直しを行いました。見直しにあたっては、コーポレートスタッフ部門関係各部とワーキンググループを組成して検討し、また有識者等第三者意見も取り入れた方針となっています。

あらためて社員一人ひとりが「CSR基本方針」にこめられた価値観や意識を共有すると共に、多岐にわたる事業を通じて価値を創造し続けることに継続して積極的に取り組んでいきます。

### CSR推進体制の構築

2004年度に経営会議の諮問機関として「CSR推進委員会」を設置し、CSRに関する社内体制の構築や、社員への意識啓発に取り組んできました。そして、企業の社会的側面における姿勢や活動に対する社会からの期待や要請に応えるべく、当社の各部署が横断的に連携してCSR関連活動を推進しています。

また、各ユニットにおけるCSR経営の実践支援や「良い仕事」の社内浸透など、現場と一体となった活動の企画・推進を図るため、コーポレートスタッフ部門、各営業本部、海外地域本部および国内支社・支店に「CSR推進担当者」を設置し、社内ネットワークを構築し、四半期に一度、情報共有の場として「CSR推進担当者会議」を開催しています。

## CSR推進体制



## CSR推進委員会

CSR推進委員会は、CSRIにかかわる経営方針および事業活動に関する経営会議への提言、CSR経営の社内浸透、また「特定事業」に対する答申などをその目的としています。

委員会は、コーポレートスタッフ部門担当役員（経営企画部担当）を委員長、コーポレートスタッフ部門担当役員（人事総務部・法務部担当）を副委員長とし、経営企画部（事務局）、IR部、広報部、人事総務部、法務部、事業統括部、環境・社会貢献部といったコーポレートスタッフ部門各部長により構成され、以下に掲げる事項を役割として活動しています。

1. CSR経営の基本方針およびCSR推進活動の基本計画の立案。
2. CSR経営の社内推進体制の構築および整備。
3. CSR推進活動の年次重点課題の策定と推進。
4. CSRIにかかわる社内外対応。
5. 特定事業に該当する個々の案件の推進可否、または推進する場合の留意事項などに関する答申。

また、CSRIにかかわる諸課題への対応を目的に、CSR推進委員会の下部組織として、環境諮問委員会を設置しています。

## 三井物産を取り巻くステークホルダー

三井物産は、当社の多種多様かつグローバルな事業活動が社会に及ぼす影響を見極めのうえ、利害関係を持つステークホルダーを特定すべく対応しています。

ステークホルダーとの双方向の対話を通じて、当社の役職員一人ひとりが、社会からの期待や要請をしっかりと把握したうえで、市場の環境変化に適応しつつ自らを絶え間なく進化させ、本業を通じて社会の役に立つ三井物産らしい価値を創造し、社会に提供していきます。



## ステークホルダーとの対話

「事業活動を通じて価値を創造し続け、日本を元気に、世界を豊かにしたい。」その想いを実現するために、社員、取引先・株主・パートナー企業の皆さま、商品を手にする消費者など、当社を取り巻く人々が何を必要とし、私たちに何ができるのかを考えることは不可欠です。当社は、ステークホルダーの声に耳を傾け、社会の動きを把握することに取り組んでいます。

## これまでの活動

### 2013年1月「良い仕事」座談会

CSR推進委員長の木下専務と同副委員長の田中常務を交えて、若手社員6名と「良い仕事」について語り合いました。「良い仕事」とは「正解はなく何度も咀嚼できるもの」「がむしゃらに仕事をするからこそ時に立ち止まって考えるもの」「名脇役を演じることでの貢献」などさまざまな意見があり、一人ひとり、その時々を考えることの大切さをあらためて感じる機会となりました。



## 2012年12月「原点から未来へのCSR」

出席者：高 巖 麗澤大学大学院 経済研究科教授  
大久保 和孝 新日本有限責任監査法人CSR推進部長  
公認会計士・公認不正検査士  
鈴木 徹 執行役員機能化学品本部長  
ファシリテーター：安永 竜夫 経営企画部長(当時)



当社のCSRへの取り組みを振り返り、今、社員が意識しなくてはならないこと、今後に向けて求められることについて有識者の方々にご意見を伺いました。「ステークホルダーとの対話」「イノベーション」「サプライチェーン」「現場力」「求められるリーダー像」など幅広く議論が交わされました。

なお、本エンゲージメントの内容は、社内誌『MBK LIFE』、および社内イントラに掲載して情報共有を推進、社員一人ひとりの日々の業務に活かせるヒントを得ることができました。



## 2012年6月 環境月間 講演:「海と環境の話 ～温暖化の影響、海の生態系と私たち～」

詳細は p.66 を御参照下さい。

## 2011年11月「消費者向け不動産事業分野での取り組みについて」

出席者：井出 多加子 成蹊大学経済学部教授  
土田 あつ子 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会主任研究員  
コンシューマーサービス事業本部都市開発事業部

井出教授からは政府や学会の動向を踏まえた意見をいただき、土田主任研究員からは消費者の視点でさまざまな指摘を受けました。本エンゲージメントで受けた意見や指摘を今後の事業活動に活かしていきます。